

「網膜走査型レーザーアイウェア技術」が、 CEATEC JAPAN 2016 で「経済産業大臣賞」を受賞

富士通株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:田中達也、以下、富士通)ならびに株式会社 QD レーザ(注1)(本社:神奈川県川崎市、代表取締役社長:菅原充、以下、QD レーザ)の「網膜走査型レーザーアイウェア技術」が、このたび CEATEC AWARD 2016 において、CEATEC AWARD 審査委員会による厳正な審査の結果、最高の賞に位置付けられる「経済産業大臣賞」を受賞しました。



同賞は、CEATEC AWARD において、648 の企業や団体より応募された出展品の中から、人々の暮らしや社会、ものづくり、ビジネスの変革、生活と社会の課題解決に貢献する IT・エレクトロニクス分野の製品やシステム、サービス、またそれを支える要素技術や部品・デバイスに対して授与されるものです。

【受賞理由について】

眼のピント調整が不要なフリーフォーカス、突出部がなく自然な外観を実現するユニバーサルデザインを志向するなど、従来のヘッドマウントディスプレイ(以下、HMD)にない種々の利点を持っており、代替技術となり得ることや、ロービジョンへの視覚支援、AR(拡張現実)/VR(仮想現実)の高度利用など、多方面での活用が期待される重要技術であることが評価されました。

【「網膜走査型レーザーアイウェア技術」について】

レーザー技術を応用した超小型プロジェクタから、網膜に直接映像を投影する技術です。内蔵カメラによる撮像や外部入力されたデジタル情報を見ることができます。独自に開発した光学系により、視力や目のピント調節の状態に影響をうけにくく、フレームの内側にプロジェクタを搭載したことにより、突出部のないデザインを実現しました。

透過型の HMD として AR やスマートグラスへと応用できるほか、主に前眼部の異常に起因するロービジョン(全盲ではない視覚障がい)に対する視覚機能支援を目的とし、医療機器としての開発を進めています。

なお、本技術は NEDO 平成 26~28 年度「クリーンデバイス社会実装推進事業」および平成 27 年度「課題解決型福祉用具実用化開発支援事業」の助成によって開発されました。

- * 本技術に利用しているレーザーの出力は、国際規格(IEC60825-1)で定められたクラス 1 に分類され、合理的に予見可能な状況下で安全であるとされています。
- * 見え方には個人差があります。使用にあたっては QD レーザが指定する専門スタッフのアドバイスを受けてください。
- * 開発中の技術です。視覚機能支援用途については薬機法未承認であり、販売・頒布はできません。



図1.「網膜走査型レーザーアイウェア」



図2.授賞式の様子

【 プレゼンテーション 】

CEATEC JAPAN 2016ホール4内特別企画エリア「ベンチャー&ユニバーシティエリア」のミニステージプログラムにおいて、QDレーザ代表取締役社長の菅原充によるプレゼンテーションを行います。

時間：10月5日（水曜日） 13時～13時30分 / 10月6日（木曜日） 15時40分～16時10分

【 関連リンク 】

- ・CEATEC JAPAN 2016公式サイト：<http://www.ceatec.com/ja/>
- ・株式会社QDレーザ：http://www.qdlaser.com/index_j.html

【 商標について 】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【 注釈 】

(注1)株式会社QDレーザ：

富士通と三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：安永竜夫）傘下のMitsui & Co. Global Investment, Inc.（設立当時：株式会社エム・ヴィー・シー）の出資で、2006年4月に富士通からのスピンオフベンチャーとして設立されました。株式会社富士通研究所（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：佐々木繁）と東京大学との10年以上にわたる産学連携による共同開発を基に、可視光領域から波長1300nm帯までの量子ドットレーザをはじめとする高性能の半導体レーザの開発・製造・販売を行っています。

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

富士通株式会社
広報 IR 室
電話：03-6252-2174

株式会社 QD レーザ
E-mail: lew@qdlaser.com